

平成29年度 県立水戸南高等学校（定時制・昼間制）自己評価表

目指す学校像	校是「風雪に耐えてこそ巨木の年輪ハ刻まれる」 常に明るくのびのびと学習を続け、高い理想と強い向上意欲に燃える豊かな心情と丈夫な身体とを兼ね備えた、心身ともにたくましい人間を育成する。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「わかる楽しさを実感できる授業」や生徒の実態を把握し、個別指導を充実させることで、学習意欲が増し、職業観も育成されてきた。今後、社会生活に必要なスキルや対人関係力等の指導も一層充実させたい。</li> <li>不登校経験者が6割を超す中、生徒に寄り添った指導と、生徒自身の向上心から多くの生徒の状況は、改善されている。さらなる飛躍をサポートしたい。</li> <li>学校の教育活動全体を通じ、道德教育との連携を図り「心の教育」が浸透してきている。さらなる充実を目指したい。</li> <li>様々な支援事業等の活用や各種体験活動・生徒会活動により、人間力が成長している。学校行事をはじめとする学校生活への積極的参加を促し、より一層充実した高校生活を送らせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習意欲の向上と基礎・基本の確実な定着</li> <li>思考力・判断力・表現力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さらなる創意工夫をこらし、「わかる楽しさを実感できる授業」を目指す。</li> <li>学習習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を目指す。</li> <li>思考力・判断力・表現力を向上させ、生きる力を養う。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業選択の意識の高揚と、望ましい勤労観・職業観の育成</li> <li>主体的な進路選択と進路実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア・カウンセリングの機会の確保に努め、キャリア教育を推進する。</li> <li>進路ガイダンスを活用し、多様な状況に応じて適切な進路指導を行う。</li> <li>生徒の特性や進路希望に合った資格の積極的取得を目指す。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己指導力の養成</li> <li>基本的な生活習慣の確立</li> <li>心の居場所としての学校づくり</li> <li>教育相談や支援体制のさらなる充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の自己指導力や自主自立の精神を向上させられる様、生徒へ寄り添った指導を目指す。</li> <li>学校生活や様々な体験活動を通して、マナーやモラルの向上とさらなるコミュニケーション能力の養成を目指す。</li> <li>多様性を受け入れ、自他共に尊重できるこころの育成を目指す。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな心の育成と規範意識の確立</li> <li>道德教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる機会をとらえ、「こころの教育」を育む教育活動を進める。</li> <li>「道德」から「道德プラス」へ、つながりと活動の充実を目指す。</li> <li>学校の教育活動全体を通じ、道德教育との連携を図る。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事、部活動への積極的・意欲的な参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南祭（文化祭）や生徒会行事、クラスマッチ、生活体験発表等の学校行事を通して主体的に行動できる態度を養うと共に、思いやりの気持ちを育てる。</li> <li>部活動の活性化を図り、定通体育大会への積極的な参加を促す。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の教育力向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広く校外の講師を招き、校内研修を充実充実させると共に、積極的に校外の教員研修等に参加し、教職員としてのスキルアップを図る。</li> <li>教師の教育力向上を通じ、地域社会からの期待に応えられる学校を目指す。</li> </ul>			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	基礎学力の確実な定着を図り、主体的な授業態度を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容の充実を図るとともに、生徒が「わかる」楽しさを実感できる授業展開を目指す。</li> <li>基本的な学習態度や個性を伸ばし、主体的に学ぶ姿勢を育成する。</li> <li>生徒の学習意欲を引き出すために、教材・学習方法を工夫するなどして、積極的な授業への参加を促す。指導方法の改善を進め、授業規律の確立を目指す。</li> </ul>		
	基礎・基本の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の現状を理解し、必要があれば中学レベルに立ち返って学力を補う指導をする。</li> <li>プリントを活用して確認するなど、小さな目標を設定しながら、自ら学ぶ姿勢を養う。</li> </ul>		
教 科	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の能力・適性、興味・関心に応じた指導の工夫に努める。</li> <li>習熟度別にクラスを編成し、生徒の能力や適性に応じた指導を行う。</li> <li>多様な生徒に対応できるように、学習形態を工夫する。</li> <li>漢字検定等を奨励し、漢字や国語に親しむ態度を育てる。</li> </ul>		
	地歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力の向上をはかる。</li> <li>課外授業の充実を図り知識及び技能を習得させ、思考力を育む。</li> </ul>		
	公民	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の類似性・相違性を判断する力を培う。</li> <li>地理的事象を、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する力を養う。</li> <li>地図や統計などの諸資料を収集し、追及した過程や結果を適切に表現する力を育てる。</li> <li>歴史上の時代のつながりに配慮し、地域のつながり時代性を見る力を養う。</li> <li>副教材を資料として活用し、諸事象を公正に判断する力を身につける。</li> <li>新聞、写真、統計などの資料を用いて、歴史的事実を思考する力を養う。</li> <li>時代差の比較、地域の比較にも目を向け、それらを考察し表現する力を身につける。</li> </ul>		
	公民	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治や経済のしくみを理解させ判断力を育成する</li> <li>視聴覚教材などを活用し、現実の問題を多角的な視点から考察する力を育てる。</li> <li>新聞記事や統計データを読み取り、分析解釈し判断する力を養う。</li> </ul>		
民	人間としての在り方・生き方を考える態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>先人達の人生における様々な課題を、机上での知識の修得に終わらせることのないように、現在の自分自身の在り方・生き方に照らし合わせ、考えさせる。</li> </ul>		

教 科	数 学	基礎学力の向上を図る。 数学への興味・関心を高める。	・習熟度別にクラスを編成し、習熟の程度に応じた指導の充実に努める。		
			・小テストを実施するなど生徒の現状理解に努め、基礎学力の充実に図る。		
			・課外授業の充実に図り、知識及び技能を習得させ、思考力等の能力を育むことを目指す。		
			・学力不振者の実態を把握し、必要に応じて個別指導を行う。定期テスト問題や評価を工夫する。		
			・数学を必要とする者、数学に興味関心のある者に対して積極的に個別指導を行う。		
			・基礎的、基本的な知識及び技能を習得させ学ぶ楽しさを伝え、意欲の向上を図る。		
	理 科	基礎学力の向上を図る。  興味・関心を高める。	・生徒の能力に応じた指導内容を精選する。		
			・ノート点検やプリント提出・小テスト等により、理解度・定着度を把握する。		
			・成績不振生徒への特別指導を充実させる。		
	保 健 体 育	基礎体力の向上に意欲的に取り組む。(体育)  運動の楽しさを味わう。  健康問題を身近な問題とし、行動できる力を身につける。(保健)	・実験、観察等の充実をはかり、視聴覚教材の活用を進める。		
			・スポーツの楽しさを実感し、一段階上の技術習得のために基礎体力の必要性を感じさせる。また、チームスポーツを取り入れて楽しく活動することにより、生徒間のコミュニケーションをとれるように指導し、個人での活動にも重きを置く。		
			・未経験種目を取り入れ、様々な運動の楽しさを味わうと同時に、誰もが初心者からのスタートとなることで不得意識を減らす。		
			・健康は人間の生活活動全ての土台となるものであることを理解させる。特に生活習慣病や環境問題を身近なこととして認識し、自分にできること生涯実践していく力を身に付けられるよう指導する。		
	芸 術	芸術の基礎・基本の獲得がもたらす概念領域の拡張とその先にある思考力の向上を目指す。 授業計画の適性化を図る。 表現に対する意欲を引き出す。 学習環境の充実に努める	・レイコフ&ジョンソンが提唱した概念メタファーの考え方に基づき、実習などの具体的な経験を通して認知技能を向上させ概念領域の拡張を図る。新たに獲得された概念領域を用いて他の概念領域の理解を促し、重層的な思考へ導く。		
			・課題内容に対する理解を深めさせ、効率的に作品が制作できるように指示を工夫する。		
・発達段階に応じた課題を設定し、獲得した技能が次の課題の必須技能となるような構造を持ったカリキュラムを維持する。					
・技能向上や作品完成の喜びを感じさせる。肯定的に評価することで自信をつけさせ、表現に対する意欲を引き出し技能の向上を目指す。					
		・施設、教材・教具の充実と開発、教室のレイアウトの最適化に努め、授業効率を高める。			
英 語	基礎学力の向上を図るとともに、英語での発信を意識した指導を行う  英語に対する興味・関心を高める。	・コミュニケーション英語Ⅰで習熟度別授業を展開し、能力に応じた学力の伸長を図る。			
		・個々の生徒の特性に留意しながら、英語で発信させる機会を増やすよう促していく。			
		・言語活動を通し、反復による習熟を目指す。			
		・ALTと協力して、英語を学ぶ楽しさを実感させる。			
		・英検受験やスピーチコンテストへの参加を積極的に勧める。			

教 庭	家庭	実験・実習を充実させ、 生活的自立に向けて基礎 学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に即した分かる授業を展開し、興味・関心を引き出すために教材を工夫する</li> <li>・実験、実習、演習を中心とした体験的・課題解決的な学習を取り入れ、思考力・判断力・表現力を向上させる。</li> <li>・基礎的・基本的な知識・技術を理解させ、実践的な能力態度を身に付けさせる。 製作実習では、完成までのプロセスを重視し、きめ細かな指導を行い達成感を持たせる。</li> <li>・普通教科(家庭総合)の修得率を引き上げる。専門教科における技術検定試験の合格率を引き上げる。</li> </ul>				
		学習環境の整備と安全教 育に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設、設備の効果的な活用を図り、実験実習における安全、衛生事故防止等の徹底を図る。</li> </ul>				
		商 業	ビジネス教育に関する基 礎的・基本的な知識・技 術・判断力の習得の向上 を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な知識・技術・判断力の確実な定着を図る。</li> <li>・学習の理解度を把握し、必要に応じ個別に指導する。</li> </ul>			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の内容などを身近な時事問題などと関連付けて考察できるように工夫する。</li> <li>・卒業後も生かせる知識・技術・判断力の習得及び、活用を図る。</li> </ul>			
情 報	情報拡散のリスクを理解 し、ネットワーク等を活用 できる知識・技術・表現力 の習得の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な知識・技術・表現力の確実な定着を図る。</li> </ul>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を整理・分析する能力を高め、正確に表現する態度を身に付けさせる。</li> <li>・ネットワーク等活用時における情報モラル・リスクに関する注意喚起を推進する。</li> </ul>					

教 務	行事運営の工夫に努め る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部との連絡調整のもと、行事・日程等の能率的運営を図る。</li> </ul>			
	教育課程の工夫に努め る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程に対応した教育課程の編成をしていく。</li> <li>・履修指導の充実と生徒にわかりやすく活用しやすいシラバスの工夫改善を図る。</li> <li>・学校外の学修による単位認定等、単位制高校の特色を生かした教育活動の工夫改善を進める。</li> </ul>			
	教育活動の円滑な推進を 図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内諸規定を整備する。</li> <li>・奨学金制度の周知に努める。</li> <li>・支援システムを使用して成績処理を円滑に行う。</li> </ul>			
生徒指導	基本的生活習慣の確立に 努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な立哨指導を通して、挨拶の励行、履物の区別、遅刻防止を呼びかける。 LHRや学年集会等を利用して、授業態度、言葉づかい、礼儀作法等を指導する。</li> </ul>			
	規律ある、安全安心な学 校生活の推進に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員輪番で校舎内外を巡回する。</li> <li>・集会や講演会等を利用して、交通安全、薬物乱用防止、情報機器の安全な利用やマナーの向上について指導する。</li> <li>・日々の声かけにより、思いやりの心を育てる。</li> </ul>			
	不登校生徒への対策を充 実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談係との情報交換を密にし、個人に対してきめ細かな指導をする。</li> </ul>			
	本校の「いじめ防止基本 方針」に基づき、いじめ の防止に努め、実態把握 およびいじめに対する措 置を適切に行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自己有用感等を高め、生徒から相談しやすい関係を構築し未然防止に努める。</li> <li>・保護者から相談しやすい関係を構築するとともに、いじめの早期発見に努める。</li> <li>・いじめ発生の際には、被害者の心のケアや加害者への指導を適切に行い早期解消に努める。</li> <li>・保護者と密接に連絡を取るとともに、必要に応じて関係機関と連携して対応する。</li> <li>・情報モラルやいじめについての事例研究や校内研修などの教職員研修を適切に行う。</li> </ul>			

進路指導	望ましい勤労観・職業観の育成と進路意識の高揚に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンスを実施し、生徒各自の進路に対する意識の高揚を図る。</li> <li>・面談・履修指導・適性検査等を通して自己の適性に合ったキャリア教育ができるようにする。</li> <li>・進路に関する資料の充実に努め、生徒の進路研究および教師の進路指導に役立てる。</li> </ul>				
	進学指導の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学等進学希望者に対し、進学先に応じたきめ細かな指導を行う。</li> </ul>				
	就職指導の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望者に対しては、個々の生徒に求人票等を紹介し個別指導の徹底を図る。</li> </ul>				
	学習指導	学習意欲の向上と確かな学力の定着。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学課外を継続的に実施し、個々に応じた学習指導をする。</li> <li>また、個別に声かけをし、課外受講者の増加に努める。</li> </ul>			
学習指導	視聴覚教育の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚室及び視聴覚教材の整備と機器の更新を進める。</li> <li>視聴覚室と放送機器の使用方法的周知を図り、その活用を促す。</li> </ul>				
	図書館の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館内の美化や図書配置を見直し、利用しやすい環境を整える。</li> <li>図書資料・情報の提供に努め、来館者の増加に努める。</li> </ul>				
	教科書関係事務の円滑かつ正確な遂行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者へのわかりやすい提示の工夫をする。確認を徹底し書類不備の減少を目指す。</li> </ul>				
	特別活動	生徒会活動の一層の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等を通し、本部役員の自覚の向上と委員会活動の活性化を図る。</li> </ul>			
特別活動	生徒の自主性を育む行事の運営に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事を通して、一般生徒の自発的な活動を支援し、意欲と行動力を高める。</li> <li>各種大会、発表会への参加を奨励する。</li> </ul>				
	安全教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が取り組みやすい内容を検討し、学校生活の充実ははかる。</li> <li>学校環境の安全点検を定期的に行い、安全管理に努める。</li> </ul>				
	保健	環境美化の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備委員会を中心にクリーン作戦を充実に努め、生徒の美化意識を高める。</li> </ul>			
	健康	心身の健康増進を図る。健康・安全に対する知識や技能の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断の受診率向上を目指す。また、健診を通して、自主的な健康の保持増進を図る。</li> <li>常に生徒の心身の健康状態を把握し、早期に問題の解決に当たる。</li> <li>避難訓練や心肺蘇生法講習会を実施し、安全に対する知識と技能の向上に努める。</li> <li>性についての正しい知識を習得し、自他の生命尊重と望ましい人間関係の構築を図る。</li> </ul>			
渉外	各種行事への会員の関心と参加率を高め、家庭との連携を密にする。	学校行事への積極的参加を会員に継続して呼びかける。				
		役員・委員の要望事業により反映させ、自主性を引き出し、各会の主体的な運営を促す。				
		会員の要望を反映した行事を計画する。				
		広報紙やインターネットを利用して効率的に会員相互の理解と問題の共有を図る。				
教育相談	適応支援教室の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスエイドや適応支援教室をとおり、学校が、心の休まる場所となることを目指す。</li> <li>また、教育相談員との連絡を密にし、教職員と連携を深め、指導充実に努める。</li> </ul>				
	専門機関等との連携。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・S Cを交えての事例検討を行う。S Cと担任及び関係職員との連携を深める。</li> </ul>				

第1年次	高校生としての自覚を促し、基本的な生活習慣の確立を目指す。	・オリエンテーションを実施し、学校のしくみを理解させ学校生活での自己管理を促す。			
		・生徒個別面談を実施し生徒理解に努める。			
		・機会あるごとに声をかけ生徒の状況把握に努め、きめ細かな指導を行う。			
	多様な課題を抱えた生徒に適切に対応する。	・養護教諭、教育相談係、スクールカウンセラーと協力して、生徒実態の理解に努める。			
第2年次	基礎学力の向上に努める。	・家庭との連絡を密にし、生徒情報の掌握に努めるとともに、学校生活の様子などを知らせる。			
		・授業にきちんと取り組むよう促す。一般常識テスト等を継続的に実施する。進学課外の受講や学力診断テスト等の受験を勧め、実力をつけさせる。			
	基本的な学校生活習慣の確立に努める。	・欠時数や修得単位数などの自己の状況を正しく理解させることで、一層の自己管理を促す。			
		・機会あるごとの声かけや必要に応じての面談を行うことで、生徒状況を把握し昨年に引き続き、きめ細やかな指導に努める。			
第3年次	基礎学力の向上に努める。	・家庭との連絡を密にすることで、家庭との協力体制を作る。			
		・HR、授業など、あらゆる機会を通して授業にきちんと取り組むように促す。また、一般常識テストを継続的に実施する。			
	進路意識の向上を図る。	・進路ガイダンス、進路適性検査やホームルーム活動を通して、正しい職業観や勤労観を養う。			
		・個別面談を早期に実施し、進路に向けての生徒個々の課題を明確にする。			
第3年次	主体的な学習態度の育成に努める。	・卒業を目指し、日常の授業を大切にして確実に単位を修得するように促す。			
		・授業への出席状況を掌握し、生徒及び保護者との連絡を密にする。			
	進路希望の実現を図る。	・進路ガイダンス・オープンキャンパス等の積極的参加を促す。就職試験対策として、SPIテストを受験させる。漢字テスト・一般常識テストも昨年同様、継続的に実施する。			
		・生徒面談で生徒それぞれの進路希望を把握し、機を逃さず適切な指導に努める。			
第3年次	自律的な生活態度の確立に努める。	・卒業後を見据え、あらゆる機会を利用してマナーを守り常識ある態度の育成に努める。			
	協調性の育成に努める。	・学校行事への積極的な参加を促し、コミュニケーション能力および協調性の育成に努める。			

※ 評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない